

日 時：平成 27 年 7 月 21 日（火）18 時 30 分 ～20 時 30 分
場 所：尾上農村婦人の家
対象地区：尾上、南田
参加人数：23 名

■意見交換（まち・ひと・しごと創生への取り組みについて）

内 容
<p>○交付金事業について （市民からの要望・質問） まち・ひと・しごと創生の交付金事業の説明があったが、この他にも交付金事業はあるか。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・説明した事業は、平成 27 年度分の事業である。新しい事業は、来年度以降出る予定であり、出て来次第お知らせする。・地域の活用化、人口定住、産み育てる子どもを多くしながら、活力ある平川市創りということで今後、5 年間の計画を作る。来年度以降どのように展開していくかは、これから 5 年間の計画を作っていくなかで決まることとなる。
<p>○イルミネーション事業について （市民からの要望・質問） 平賀駅前でイルミネーション事業をやるとのことだが、尾上にも駅がある。新たに地方創生の交付金があれば、尾上駅前にもイルミネーションを検討してほしい。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・平賀駅前のイルミネーションは、農協会館の壁面、ポケットパークという広場、商工会、市役所庁舎への設置を計画している。冬ねふたと併せた形で考えている。・イルミネーションの購入、設置、撤去費用として約 1, 500 万円の予算を見込んでいる。・イルミネーション事業は、市制施行 10 周年に併せて 11 月～1 月までで予定していたが、2 月のはしご酒まつりまで期間を延ばしてほしいとの要望もある。・商工会青年部との話し合いの中で、イルミネーションを点灯している 2 か月の間に、イベントを開いてほしいと要望をした。・尾上駅前へのイルミネーションの設置は、地方創生の事業が今後どのように展開していくのかにもよる。

■要望、質疑応答

内 容
<p>○市道金田線側溝整備について</p>

(市民からの要望・質問)

通称東(あずま)町津軽尾上駅付近の信号から尾上スポーツセンター入口までの道路の側溝整備について、以前要望したが長期計画でとの回答だった。昨年度は下町から居酒屋紀付近までが整備され、この箇所は要望よりも延長して整備された。

現要望箇所は、転落死亡事故が発生したり、交通量も多く、また通学路ともなっている。住家、商店の入口には蓋があるが、それ以外は側溝が剥き出しで深さも相当深く、側溝の縁石も不全である。距離も長いことから年次計画により整備してほしい。

(市の回答)

- ・お話のあった市道金田線については、ガール美容室から大津商店までの区間が現場打ち側溝となっている。側溝も老朽化しており、側溝を入れ替えることになると思うが、事業費が相当多額になると想定される。直ぐに取り掛かることは難しい。
- ・支障となる道路敷地の電柱を民地へ移設が可能かどうか、地権者の了解を得なければならぬこともある。
- ・来年度、再来年度からやるとは回答できない。要望があるということを念頭に置きながら、今後長期総合計画の中に組み込むことができるかを検討する。

○少年少女発明クラブへの補助金について

(市民からの要望・質問)

平川市少年少女発明クラブは、平成15年旧尾上町からスタートし、12年経過となる。3年ほど前から日本原燃からの35万円の補助金が打ち切られ、現在は全国発明協会と県発明協会からの補助金35万円で運営している。

県下に13クラブがあるが、当クラブは県下でも一番の冷遇であり子ども達が気の毒だと感じている。5年前から事務局も生涯学習課から我々民間に移管となった。会費も2~3回の材料費で消えてしまう。ペーパークラフトなどを活用し費用節約に努めているが限度がある。将来の平川市を担う子ども達へ金銭的支援をお願いしたい。

(市の回答)

- ・開校式に出席し、生き活きと取り組む子ども達の姿を拝見できた。平川市の将来を担う子ども達、ボランティア的に取り組んでいただいているクラブの先生方、非常に期待をして見てきた。子ども達の科学の心を育てていくことは、将来のために大事だと認識している。
- ・クラブの運営は、原燃の補助金を活用し運営されてきたことも聞いている。
- ・各種団体への補助金の出し方について、考える時期に来ていると感じている。恒常的に補助金を出してきている団体で、既得権益のようになることは良くない。財政的にいくら補助していても、恒常的に補助するとなると、補助団体ばかりが多くなってくる。いずれは全ての補助金を見直し、申請を受けた上で、どの事業にどのような補助が必要なのかと、再検討する時期に来ているのではないかと思う。
- ・団体の立ち上げ時の困っている時期に、5年、10年などと区切って補助をしていくこ

とで、団体に自立してもらうことができれば良いと思う。

- ・スポーツ少年団等には市からの補助は出していない。発明クラブに対し直ぐに補助金を出すとはならない。ご理解いただきたい。

○冬期間の除排雪、児童見守りについて

(市民からの要望・質問)

金田小学校からの依頼を受け、ボランティア3名で「金田っ子見守り隊」を6年ほど行っている。最近では除排雪が良くなったと感じているが、まだ危険な箇所がある。十字路、T字路の曲がり角の皿状を解消し、また交差点には雪を積み上げず、見通しを良くしてもらいたい。

また、冬期間だけでもいいので、危険な交差点に公費で人を配置できないか。

(市の回答)

- ・子ども達の通学路に関する安全、安心を大事にしていかなければならない。歩道を確保できればいいが、なかなか確保できない通学路もある。このようなところは重点的に除雪をし、それでも安全を確保できないところは排雪するようにしている。
- ・交差点の角に積まれた雪については、学校の先生方とも相談し状況を見ながら排雪するようにしている。また、交差点にはできるだけ雪を高く積まないよう指示している。土木課でもパトロールし、危険箇所の除排雪を行っている。
- ・公費で冬期間、交差点に人員を配置することについては難しい。

○教員のあいさつについて

(市民からの要望・質問)

県教育委員会からの依頼で、毎月1回「声かけリーダー」として学校に行っている。学校の先生方は、通勤時ほとんどが自動車出勤する。我々の前を歩いて行く際、徐行し声かけをする先生、徐行もしないで通り過ぎる先生などいろいろである。車から降りてあいさつしてくれる先生もいる。先生方が子ども達にあいさつ運動など、あいさつをしろと言っているが、このような状況で児童に教育できるのかと疑問に思う。

市の教育関係者と話す機会があれば、話題に取り上げてほしい。

田舎館村では、学校正門前に父兄等が立ち、あいさつ、声かけを行っている。平川市でもできないか。

(市の回答)

- ・青森県が推進する「命を大切に作る心を育む県民運動」の一環である声かけリーダーは、現在市内3地区に12人の声かけリーダーが委嘱され、率先して活動いただいている。
- ・地域全体での取り組みについては、各町会を始めPTA、学校、各種団体の皆様の協力、連携しての事業となる。子ども達のみならず、あいさつをするということは大事なことであるが、平川市ではまだそこまでできていない。今後の検討課題としたい。
- ・教員の対応に関する指摘については、学校生活面における挨拶についての指導は学校でも行っているが、声をかけない先生がいるとのことであれば、子どもと大人の心のつな

がりを持つことは大事なことなので、校長会等を活用して話題に取り上げていきたい。教育長にも内容を伝える。

- ・市長に就任し職員には、まずあいさつを自分からする。お礼お詫びを早く言う。できない理由を探さないようにと話をしている。

○健康推進事業について

(市民からの要望・質問)

県では短命県返上キャンペーンを行っている。平川市で現在行っている取り組みを知らせてほしい。近隣の町村ではコース毎に消費カロリーを記載したウォーキングマップを作成し、健康づくりを行っているようだ。市民が外に出て散歩をし、散策できる環境を整備できないか。

(市の回答)

- ・全国一の短命県である青森県の中でも、平川市は特に平均寿命が短く、厚生労働省が発表した平成22年の平均寿命ランキングで、男性は全国市区町村の中でワースト7位と不名誉な結果であった。
- ・市では、市民の皆さんの自主的な健康づくりを推進するために、基本理念や関係者の役割などを定めた(仮称)いきいき健康長寿のまちづくり条例を制定するとともに、10月には健康づくり宣言市民大会を行う。健康意識の向上を図り、一人ひとりが健康づくりを始める契機にしたいと考えている。
- ・現在市では各種健診をはじめ、栄養や運動の講座などさまざまな健康づくり関係事業を実施しているが、新たな事業の検討も行っている。今回要望のあった散歩や散策ができる環境づくりについては、事業化の可否も含めて、新規事業を検討する際の参考にさせていただきたい。
- ・健康づくり市民大会を10月25日に予定している。大会の主な内容は、宣言文の披露、弘前大学の中路教授の基調講演、アトラクション、健康チェックコーナー等を予定している。
- ・昨年より市では地域の健康づくり活動支援事業を実施し、広報で周知したり、各町会にお願いをしている。昨年は6箇所の申込みがあったが、予算を少し余した。今年度は70万円を予算化しており、新規の団体が優先としているが、決定したのが2団体のみである。どうしても新規団体が無ければ、昨年実施した団体も対象としている。7月末まで申込期限があるので、健康づくり事業の計画があれば相談いただきたい。どのようなことをすればいいのか、また申請手続きなどについて相談に応じるので、担当課へお話しいただきたい。
- ・健康づくり事業は、1町会10万円で5町会であったが、平賀ライオンズクラブから100万円の寄附をいただき、年間2団体分を5年間増やしている。
- ・健康で長生きする地域を作っていくには、生活習慣、食育、運動、健診による病気の早期発見、心から笑えるような環境を作っていくことによって、長生きしていけるのではないと思う。目標を持っていることで長生きもできる。市でも環境づくりに力を入れ

ていきたい。

- ・平川市の男性が平成22年の段階では全国ワースト7位とのことであるが、いろいろな理由があって若くして亡くなる人がおられた。これも少しずつ改善してきている。

○遊歩道等の整備について

(市民からの要望・質問)

田舎館村の田んぼアートを訪れる観光客の足を平川市の盛美園、猿賀神社、弘南鉄道の写真撮影スポットに向けることはできないか。そのために、遊歩道とサイクリングロードを兼ね備えた農道整備を今年の懇談会で要望した。市の回答は、良いアイデアだとのことであった。あれから1年経過するが、1年の間にどのようになったか知らせてほしい。

(市の回答)

- ・田舎館村田んぼアートは全国的にも有名である。平川市でもこの観光客を盛美園、猿賀公園に結び付けることができないかと考えた中で、去年は津軽南の観光地域ということで、るるぶに載せていただき、田舎館村、黒石市、平川市の3つを一体的に全国に売り出そうということをやっている。来ていただいたお客様にお金を落としていただけのかが大事である。宿泊をしていただければ一番良いと思っている。田舎館、黒石の観光地を巡り、平川市に宿泊していただければ一番、平川市に経済効果があると思う。
- ・田舎館村と盛美園等を直結するサイクリングロードについては、2市村にまたがってもおり、事業としては進めないでいた。
- ・おのえ荘前の猿賀石林富岡線は県の都市計画道路として、大浪線まで来るという計画もあったが、どこまで整備されるかはまだ分からない。田舎館の工区で遺跡の発掘等もあり止まっていることもある。
- ・検討した中で、小和森から猿賀を通過して、田舎館まで行くサイクリングロードのみに投資することは難しいという意見もあった。アイデアとしては面白いが、このサイクリングロードがなければ田舎館と平川をつなぐ路線がないかとなるとそうではない。

○人口減少と空き家対策について

(市民からの要望・質問)

空き家が非常に多くなっている。空き家対策特別措置法が5月26日から施行された。5月26日から7月まで市では何をやったか、また市の現状は。

(市の回答)

- ・今年の懇談会で、市内に空き家が423件あると話をさせていただいた。今はそれより多くなっていると思う。人口が減っている中で、世帯数が増えている。世帯分離する人が多いというのも理由にあると思う。親と一緒に住まずに、若い夫婦が新たに家を建て世帯を分けていくと、古い家に住んでいた方が亡くなれば、その家が空き家となっていく。
- ・空き家を放置しておくことはできないが、だからといって空き家を行政で取り壊すと税金を使わなければならない。空き家は全国的な課題である。

- ・所有者の了解を得ながら、空き家の活用も考えないといけない。空き家バンクを作りながら、田舎暮らしをしたいという都市圏の人へ空き家の提供、情報提供ができればと思っている。不動産の方との連携も必要になってくる。
- ・市でも空き家条例を制定した。条例は作れば終わりというものではないので、これからは条例を活用する段階に入っていく。

○防犯灯、街灯について

(市民からの要望・質問)

尾上十文字から西側の通称横町地区は、街灯が極端に暗く防犯上問題がある。

昨年11月、市から防犯灯に係る要望を募った際に、照明が不足している旨回答した。これに対し市からは、照明は全てLEDとなるが現在の照明不足が解消されるかは補償できないとのことであった。照明不足が解消できなかった場合の解決案を提示いただきたい。昨年、防犯協会の総会で市長より防犯灯に多額の予算を投じ防犯上役立つとのことであったが、予算のほとんどをLED化に費やすようである。横町地区同様に防犯灯が少なく、防犯上問題のある地区が多数あると思う。この対策をどのようにするのか。

(市の回答)

- ・昨年、行政委員の会議の席上で、経費は1億3千万円ほどかかるが、1年間かけて防犯灯、街灯を全てLED化すると話をした。
- ・まちづくり懇談会では、防犯灯が立っている逆方向に歩道があり、歩道を歩いても防犯灯の効果がないという話をいただいた。このようなところは、歩道のある方に街灯を立てるよう、これからのLED化の事業の中でやっていく。
- ・現在ある街灯、防犯灯はLEDとなる。LEDとすることによる効果は、明るい、寿命が長い、電気料が4割ほど安くなることである。
- ・町会内の街灯は電気料を町会で支払っている。町会間の防犯灯は、市で電気料を支払っている。LEDにすることで、電気料が安くなり町会の負担も減る。
- ・横町の街灯は、平成19年度に設置されたと聞いている。LED化しても暗ければ、別な対策を考えなければならない。市としては、LED化の工事を行う際に調整したいと考えている。

○プレミアム付き商品券について

(市民からの要望・質問)

今月、平川市プレミアム商品券が発売されたが、即日完売したと聞いている。この販売経過について市では、情報を得ているか。

また、市独自の商店街活性化策はあるか。

(市の回答)

- ・当日、スタッフとして私も販売の手伝いをした。商工会が実施主体の事業であったが、市職員、金融団の皆さんと市内3箇所の商工会を会場に販売した。
- ・平成23年度に商工会独自で、総額5千万円のプレミアム付き商品券を販売したが、そ

の時は売れ残ったという実績があった。このこともあり、今回も1週間位は売れ残るのではないかという考えもあった。平川市での発売前に売り出した他市の状況を見たところ、ほぼ即日完売だったことから、商工会本所では受け付け箇所を当初より1つ増やし3箇所とした。警備員も増員し対応に当たった。

- ・一番早い人は午前2時から並んだと聞いている。購入までに3時間くらい待った人が多かったと思う。平賀では午後2時台には、ほとんど待たずに買えた。
- ・商工会の各販売所で完売となった時間は、平賀で午後3時30分頃、尾上で午後4時頃だった。碓ヶ関では午前11時前には完売。
- ・各販売所への商品券の配分は、各地域の世帯数に応じ配分した。
- ・市独自の商店街活性化対策としては、尾上中心商店街に補助金として20万円を予算計上している。
- ・空き店舗対策としては、60万円を予算計上している。空き店舗を活用し、店を出した人には月5万円を上限に補助する制度がある。平賀地域で空き店舗を活用し、店を出している人が2店舗ある。店舗を出し12ヶ月を経過した後に補助金を交付する仕組みである。
- ・その他としては、はしご酒まつりに25万円、商工会青年部で行っている婚活事業に100万円補助している。

○尾上中央公民館の跡地利用について

(市民からの要望・質問)

尾上の中心部は、買い物をしても休める場所がない。尾上中央公民館の跡地にあずまやのような休憩所を作れないか。

(市の回答)

- ・尾上中央公民館は耐震基準を満たしていないことから、今年度解体する。
- ・先日、高木、尾上、南田町会の3町会が集まり、今後集会施設をどのようにするかを協議した。その結果、尾上、南田町会は引き続き尾上農村婦人の家を耐震診断、耐震改修し、集会施設として使用していく。高木町会は尾上公民館跡地を利用して、集会施設を建設したいとの要望であった。
- ・解体後の跡地には、高木町会の集会所が建つことになろうかと思う。集会所とは別にあづまやを建てることができるかは、関係部署、地元の人との協議が必要である。
- ・尾上公民館の敷地には、庭園がある。この庭園を残して欲しいとの要望もある。庭園を残した場合、その後の管理の問題もある。市で管理することは難しい。

○自転車の運転について

(市民からの要望・質問)

ルールを守らない自転車運転が目につくことから、指導の強化が必要だと思う。特に交差点の赤信号での左折、一時不停止、右側通行が目立つ。

(市の回答)

- ・国でも道路交通法が6月1日より改正され、自転車運転のルール違反については、危険だという14事項が規定され取締りの対象となった。
- ・自転車も軽車両であり、法律改正、ルール改正があったことを広報、周知していきたい。また、教育委員会にも子ども達に指導するようお願いする。

○飲酒運転撲滅について

(市民からの要望・質問)

飲酒運転による事故犠牲者が、あとを絶たない。あれほど報道などで取り上げられているのに無くならない。他人事で自分は大丈夫と思っているのではないか。飲酒運転撲滅の活動は多方面の団体でされていると思うが、今一度、撲滅に向け何ができるかを考えていただきたい。

8月4日を過ぎると平川市で死亡事故が発生しない期間が丸2年となる。

(市の回答)

- ・飲酒運転は壊滅していないが、減っては来ていると思う。飲酒運転は絶対にしないという人を1人でも多くして行かなければならない。啓蒙活動をしていく。

○ごみ捨て禁止条例の制定について

(市民からの要望・質問)

通学路にタバコの吸殻やごみが落ちていたり、そこを通る子ども達は、ごみが落ちていても平気、ごみをポイ捨てしてもいいと思うかもしれない。ごみが落ちていない街の方がいい。ポイ捨て禁止条例を制定できないか。

(市の回答)

- ・きれいな環境、街づくりは皆で作って行かなければならない。市でもクリーンアップ作戦で一斉清掃を行っている。ごみ拾いをしてきれいにしても、なかなかポイ捨ては無くならない。
- ・ポイ捨て禁止条例を制定している自治体もあるが、罰則を設け、その監視をどのようにするかなど、難しい部分もある。
- ・ポイ捨てし難い環境を作っていくことが大事だと思う。これからも引き続き、啓蒙活動をしていく。

○尾上庁舎の利活用について

(市民からの要望・質問)

平成30年に市役所新庁舎ができ、尾上庁舎の2階の職員が平賀へ移動すると聞いている。このようになった場合、空いた尾上庁舎のフロア、部屋はどのように活用するのか。

(市の回答)

- ・支所、分庁舎のあり方検討委員会の中で検討いただき、新庁舎が出来た際には機能を一箇所に集約し、市民の皆さんが一箇所で用事を足せるようにと要請、答申を受けた。
- ・検討委員会からも、空いたスペースは積極的に活用してほしいと提言をいただいている。

・市民の皆さんからもご提言をいただきながら、地域が活性化するような活用方法を模索していきたい。

・新庁舎建設については、今後、規模、建設場所を検討していくこととなる。

○農産加工センターについて

(市民からの要望・質問)

文化センター隣の農産加工センターについて、県から市への所有権を移転することで動いていると思うが、その進捗状況は。

(市の回答)

- ・これまでの加工センターは研究施設であり、作ったものを販売できなかった。しかし、保健所に確認したところ、現在の設備であっても加工したものを販売できるとの回答を得ている。
- ・加工センターの土地は、旧平賀町土地開発公社が県に対して時価相当の価格で売った土地である。県が市に譲渡する際にも、土地は時価相当で買うことになると思う。現在、土地の不動産鑑定評価を行っている。
- ・議会への説明、また取得に係る補正予算案も提案しないといけない。時期としては今年の12月定例会を予定している。
- ・平成28年4月1日譲渡に向け、県、市で作業をしているところである。

○自主防災組織の資材管理について

(市民からの要望・質問)

自主防災組織を組織し、市の補助を受け防災備品を整備した。この防災備品を保管、管理しているが、盗まれたり、壊されたりされないか心配である。防犯カメラなどを設置すれば、盗まれた際に手がかりになると思うが、予算が絡むので難しい。

他の自主防災組織でどのように管理しているかを市で把握しているか。また、どのように管理すれば、一番安全か等アドバイスいただきたい。

(市の回答)

- ・各自主防災組織での備品の保管体制、方法は把握していない。知っている限りでは、管理を極端に強化しているような組織はないと思う。町会に倉庫があれば、倉庫に保管している。
- ・備品の保管方法について、自主防災組織の中で良い方法が新たにあれば、総務課よりお知らせする。

○尾上公民館の今後について

(市民からの要望・質問)

尾上公民館があるが、昨年度は使用禁止とのことで利用者数がゼロであった。公民館を使用できないことは、街の活性化がそがれる要因の一つである。

この間の市議選の候補者が行ったアンケートの中には、尾上公民館を建て直してほしいとの要望もあった。

教育長が社会教育の充実を図り、各世代が社会教育のための拠点に通うことのできる環境づくりを進めたいとのことであるが、尾上地区には集まる場所がない。

尾上公民館の建っている土地は、個人の土地であった。旧尾上町に譲る際に、公共的なことに使ってほしいとのことで譲ったものである。

先ほども話に出たが、その他に尾上公民館の今後について、何か情報はないか。

町会でも重要な結論を出すときは、臨時総会を開いてほしい。

(市の回答)

- ・尾上公民館の取り壊し後の跡地利用については、先ほど申し上げたとおりである。
- ・庭園については、これから協議が必要である。今は手入れされておらず、灯籠の笠も落ちている状態である。庭園を残したい人、また残さなくてもいいという人など様々であり、どのようにしていけば良いのか難しいところである。
- ・公共的なものとして、現在商工会館があるが、商工会館に派遣されている職員が現在2名いる。この職員体制も今後、1人になる予定であり商工会館をどうするのかということもある。
- ・土地は平川市の土地であるので町会とも協議をしながら、どのようにすれば良いのかを検討していく。

○公共施設の使用料について

(市民からの要望・質問)

昨年も話をしたが、市民のために公共施設を使う場合には使用料を無料にしてほしい。夢ぶたいの公演は、使用料が減免されたと聞いている。

市長選などの公開討論会の使用料などについては無料にできないか。藤崎、浪岡などでは市民を対象とした行事については、使用料は無料だと聞いている。

(市の回答)

- ・夢ぶたいの公演の使用料については、今年も減免する予定である。
- ・入場料をとっている場合、使用料を無料とすることは難しい。基準があり、減免できるもの、減免できないものがある。
- ・市民が市民のためになるような事業については、使用料を減免したいという思いはあるが、減免した場合にその範囲をどこまでにすればいいのかなど、検討しなければならない。

○県農産物加工センターについて

(市民からの要望・質問)

尾上農村婦人の家に加工部がある。農村婦人の家の運営委員会があり、尾上、南田町会、加工部で話し合いがあった。加工部の話では、農村婦人の家の設備の全てが県加工センターにはないので、できれば両方の施設を使いたいとのことだった。

電気代、水道代などは町会、加工部の区別ができない問題がある。市と加工部で話し合いの機会があれば、県加工センターに活動拠点を集約するよう勧めてほしい。加工部の備

品を全て持っていっても構わない。

(市の回答)

- ・農村婦人の家の備品が、どのような所有区分になっているか把握できていない。
- ・県の施設が譲渡された場合には、一箇所で活動した方が使い勝手が良いと思う。現在の加工センターもかなりの備品は揃っている。
- ・できれば農村婦人の家の備品を整理いただいて、県加工センターに活動拠点を移していただければ幸いである。

○商店街の景観について

(市民からの要望・質問)

市内各地域の商店街では、独自に立派な街灯を設置しているが、既存の電柱、またそれらの配線が込み入っていることにより、商店街通りの美観が損なわれている。直ぐに対応できないと思うが、電柱、配線の地中化を計画し、実現してほしい。

(市の回答)

- ・現在の状況は、平賀駅から大鰐浪岡線バイパスまでの 580mの区間について電線を地中化する計画である。計画している道路が県道（町居平賀停車場線）であることから、青森県に平川市の重点事業として平成 21 年度から要望してきたところ、平成 24 年度から一部の区間（約 153m）で事業が実施されることになり、平成 28 年度で工事が終了する予定である。
- ・地元の協力体制を図るため、「平賀駅前通り電線地中化実行委員会」を組織し事業の促進に努めている。
- ・残りの区間（約 427m）についても引き続き事業ができるよう重点要望をしている。
- ・各地域の商店街のメイン通りの無電柱化については、電線を入れる管路を埋設したり、変圧器を収納するボックスを設置する必要がある。ある程度、幅のある歩道に設置しているものが、殆どだと聞いている。また、多額の事業費が必要となることから、今、計画中の事業の目途がつき次第、事業実施が可能か含めて検討する。

○通学路について

(市民からの要望・質問)

各小学校の通学路の明確化については、地域毎に危険が無い道路を使用することとなっている。危険が無い道路の情報が乏しいので、学校毎に指定してほしい。

通学路を明確化した後は、それぞれの通学路に歩行者専用道路を整備してほしい。いつ実現可能かを知らせてほしい。

(市の回答)

- ・通学路は各学校で指定している。図面は教育委員会にある。
- ・通学路に係る歩行者専用道路の整備要望について、当市では教育委員会、道路管理者、学校、公安委員会の関係機関と連携し、通学路における緊急合同点検を実施している。

その結果、危険と思われる箇所については対策を検討し、関係機関と協議している

- 歩道整備計画に先立ち、通学路交通安全プログラムを策定し、通学路における交通安全の確保に向けた推進体制の構築を図っている。
- 歩行者専用道路整備となれば、それなりの交通量があることや、歩道計画より更なる用地や建物等の補償が必要であり多額の事業費を要すことから、歩行者専用道路の整備は実施できない。